

令和2年度（第10期）

事業報告書

自 令和2年4月1日

至 令和3年3月31日

社会福祉法人 兵庫県視覚障害者福祉協会

# 事業実施状況

## 第1 社会福祉事業

### 1 法人本部事業

本協会の運営に当たって、県福祉センター会議室等において、次のとおり会議を開催し、事業の適切な執行に当たった。

#### (1) 理事会

第56回理事会（決議の省略の方法による）	6月12日
第57回理事会	7月31日
第58回理事会	11月13日
第59回理事会	1月15日
第60回理事会	3月12日

#### (2) 評議員会

第20回定時評議員会（決議の省略の方法による）	6月27日
第21回評議員会	9月18日
第22回評議員会	3月19日

#### (3) 監査会

決算監査会	5月15日
-------	-------

#### (4) 正副会長会

業務の打ち合わせ等、ほぼ隔月開催

#### (5) 支部情報交換会

9月18日

## 2 視覚障害者情報提供施設事業

### (1) 点字図書館等事業

県から指定管理を受託し、点字図書館を運営した。

#### ① 点字図書館事業

##### 図書利用状況

#### ア 利用者登録数

2,496人、令和元年度より19人増となった。

#### イ 利用実数

○点字図書 (延) 1,244人、(実) 147人、1,318タイトル (3,179冊)

令和元年度との増減 (延) 139人減、(実) 2人減、120タイトル減 (3冊増)

○録音図書 (延) 13,479人、(実) 1,052人、19,301タイトル (22,190冊)

令和元年度との増減 (延) 906人減、(実) 168人減、1,377タイトル減 (1,151冊減)

#### ※上記のうち、他図書館貸出数

点字図書 (延) 260館 271タイトル (1,129冊)

録音図書 (延) 4,779館 6,384タイトル (6,882巻)

○点字データアップ・ダウン利用状況

アップタイトル数 92タイトル、アップ巻数 285巻

ダウンタイトル数7,469タイトル、ダウン延べ利用者数 12,543人

○録音(デジジー)データアップ・ダウン利用状況

アップタイトル数 77タイトル、アップ時間数 490時間 45分

ダウンタイトル数20,097タイトル、ダウン延べ利用者数 84,014人

図書の状況

ア 所蔵数

令和3年3月31日現在

点字図書 15,033タイトル、42,298冊

録音図書 15,002タイトル、59,797巻

点字雑誌 552冊

録音雑誌 2,613巻

参考図書(普通文字) 736タイトル、879冊

拡大図書 229タイトル、430冊

点字・録音図書用原本(完了済みのもの) 4,102冊

※点字図書に拡大点字図書8タイトル8冊を含む。

イ 図書収集、製作状況

○点字図書

厚生労働省委託図書 67タイトル(154冊)

寄贈図書 13タイトル(18冊)

自館製作図書 82タイトル(277冊)

購入図書 2タイトル(2冊)

小計 164タイトル(451冊)

点字雑誌 15タイトル(173冊)

計 179タイトル(624冊)

○録音図書

厚生労働省委託図書 77タイトル(77巻)

寄贈図書 6タイトル(6巻)

自館製作図書 55タイトル(55巻)

購入図書 0タイトル(0巻)

小計 138タイトル(138巻)

録音雑誌 7タイトル(82巻)

計 145タイトル(220巻)

指導・相談の状況

ア 読書相談 1,648件

点字・録音・拡大図書等に関する相談及び辞書引きサービスやコンピュータによる全国点字図書館、公共図書館等の蔵書検索を行った。

イ その他の相談 320件

ボランティア等の相談や点字指導等の相談があった。

ウ 生活等相談 1,697件

幸いコロナ禍における困りごとは少なかったが、視覚に障害があることが判明した方、視力低下により現在の就労が困難になってきた方、新入学で新たな環境で一步を迎える方などからの相談が目立った。また、病院の地域連携室や眼科から支援依頼の声がかかったケースもあった。相談から訓練につながったケース、入所型の訓練施設などの情報提供、生活のちょっとしたヒントになる情報提供など、様々な相談が入ってくるようになったと感じられた。

施設利用状況

ア 利用者数

対面朗読室・聴読室	83人
閱 覧	584人
ボランティア研修室等	352人
録 音 室	566人
見 学 ・ その他	1,221人
計	2,806人

イ 施設見学

兵庫県関係者	3名
高校生課外研究	2名
小学生と保護者（夏休み研究課題）	2名

ボランティアの状況

ア ボランティア登録数

点訳ボランティア	49名
音訳ボランティア	98名
デイジー図書製作ボランティア	9名
対面朗読ボランティア	6名
作業ボランティア	6名

イ 登録団体

点訳	1団体
音訳	2団体

ウ ボランティアの活動概要

#### ◇点訳研修会

のじぎく全体会	不定期			(30名)
のじぎくA	月2回	第2・4木曜日	午後	(9名)
のじぎくB	月2回	第2・3火曜日	午後	(3名)
のじぎくC	月1回	第2水曜日	午後	(5名)
のじぎくD	月1回	第1火曜日	午後	(5名)

#### ◇音訳研修会

声のあげぼの	月1回	第1木曜日		(10名)
グループそよかぜ	月1回	第1木曜日		(18名)

#### エ 表彰関係

田摩眞規子	〔点訳〕	(社福) 日本盲人社会福祉施設協議会	奉仕者表彰
錦織典子	〔音訳〕	(社福) 日本盲人社会福祉施設協議会	奉仕者表彰

### 点字ニュース即時提供システム事業

日本視覚障害者団体連合の実施している標記事業の窓口になり、速やかな情報提供に貢献している。

#### ア 登録者の状況

個人登録17人、公共機関等1件 合計18名

#### イ 利用状況

- ・点字JBニュース送付者 0名
- ・メール版送信数 4,320件

### その他事業

#### ア 点字図書館だより発行状況(年6回)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため録音版4月号を休止し普通文字版を郵送した。

点字版 840部

録音版 750部

普通文字版 1,110部

計 2,700部

#### イ オーディオブックの充実強化

専門書のオーディオブック製作を行った。製作では、26ページまでの試し読み他のテキストを国立国会図書館にデータで提出し、50タイトルを未校正テキストとして国立国会図書館に登録した。また、専門書オーディオブック1,026タイトルを購入し、昨年度と併せて1,273タイトルをオーディオブック用登録をすることにより聴くことができるようになった。

#### ウ 生活点字の普及啓発

昨年度に引き続き、L点字・その他の様々な教材を用いて、受講者がそれぞれの到達目標を持ち、楽しみながら身の回りの簡単な点字を読み書きできるようになること、同じ目標を持つ人同士の仲間づくりを目指して、講座を以下の通り開催した。

また、一般晴眼者に点字について知ってもらえるよう、点字名刺づくり講座やポラリスミニ体験会を実施した。

#### 開催地区・講座回数

- ・生活点字普及講座・・・上郡町 11回、姫路市 3回
- ・ポラリスミニ体験会・・・神戸市 2回、丹波市福祉用具展 1回
- ・点字名刺づくり講座・・・宍粟市 2回、神戸市パラスポーツ王国 1回

参加者 延べ 151人

#### エ ICT指導者養成研修事業

昨今のICT技術の進歩やデジタル製品の普及から、PCやスマートフォンを生活に取り入れる視覚障害者が多くなる一方、使い方の丁寧な指導を行える人材は少なく、興味はあっても手が出ない、持っているけど使いこなせていないなどの声が多い。そこで既にPCやスマートフォンを使っている当事者が、近くにいる仲間の指導者となって活躍できる環境づくりができないかという視点から、当事者向けの指導者養成研修を1月27日から3月27日までの毎土曜日、午後1時から4時まで、全10回開催した。

兵庫県は広く、またこのコロナ禍で対面講習が困難なことから、ZOOMを使ったオンライン講習形式で行った。ZOOM参加できることを条件に募集をしたところ、43名の申込があり、大変盛況な講習会となった。

しかし、受講生の習熟度は様々で、指導者としての活躍に前向きだったのは2割程度。今後の課題として、受講生の選定や、実戦形式も交えたカリキュラムの必要性を感じる結果となった。

平均参加人数・・・35名

内容・・・1～6回目 PC操作（基本からオンライン会議を開くまで）

7～10回目 スマートフォン操作（基本からコミュニケーションアプリの活用まで）

#### オ オンライン研修環境整備事業

オンライン研修環境を整えるため、機器としてノートパソコン・iPadを購入した。なお、ソフトはZoom会議用のライセンスを取得した。

#### カ 来館者用感染症対策

点字図書館に来館される方に対し新型コロナ感染症予防対策として次のことを行った。

- ・机上アクリル板の設置
- ・手指消毒液の配置
- ・録音室、IT室、等において机、椅子等使用後殺菌をおこなうための薬品を準備
- ・館内に空気清浄機を設置

#### キ NHK歳末たすけあい助成事業

ブレイズETの機能の一つ・OCR機能を使い、内蔵カメラで撮影した活字文書を自動音声により読み上げさせる体験会を開催した。

開催場所 兵庫県点字図書館及び兵庫県福祉センター会議室

開催回数 2回

参加者数 延べ8人

#### ク 出前講座の実施

市町や社会福祉協議会等の要請により、職員が講師となった出前講座を実施した。

##### ◇宍粟市社会福祉協議会 点訳ボランティア講座

日 時：7月22日、7月29日、8月5日

対 象：宍粟市社会福祉協議会で既に登録の点訳ボランティアまたは希望者

講 師：小林（障害理解と点字について1日目）増山（点字実習指導2・3日目）

##### ◇加古川市職員研修

日 時：11月17日

対 象：加古川市職員

講 師：小林、長浜、玉利、田村

##### ◇芦屋市 読み書き（代読・代筆）情報支援員養成講習会

日 時：12月21日、1月26日（コロナにより2日中止）

対 象：市役所職員等支援者

講 師：小林、長浜、玉利、田村

##### ◇兵庫教育大学障害理解研修

日 時：3月18日（ウェビナー開催：4月30日まで録画視聴可）

対 象：大学職員・在校生

講 師：玉利

## ② 身体障害者福祉事業

県からの委託事業を核に下記のとおり実施した。

### ア 視覚障害者情報提供促進事業

#### ・ICT相談

フロッグワークス代表岸本将志氏を講師に、パソコン等IT機器類の操作指導やトラブル対処法に対応。今年度はコロナによる緊急事態宣言発令を受け、原則電話対応のみで火曜日と水曜日の午後を相談日として行った。毎日3～4名の相談者があり、新規相談者よりリピーターの割合が高かった。

### イ 視覚障害女性家庭生活訓練事業

視力低下が進んだ難聴の高齢女性に対し、再び家庭内でスムーズに家事ができるよう家庭を訪問し、現状を活かす助言指導や訓練を行った。また、来所のあった中年層の女性に機器類の使い方について訓練指導を行った。訓練実績 2名延3回。

### ウ 視覚障害青年社会生活教室

新入学男子大学生へ歩行・生活の指導と親御さん、大学への障害理解からサポートへ向けての助言（大学構内所作から学習について）を行い、また学生に学校生活のみならず、自身の活動の場として、地域の視覚障害者スポーツを体験してもらうなど行った。

訓練実績 3名延13回。 コロナ禍において教室型の行事は計画しなかった。

## エ 中途視覚障害者各種指導事業

### ◎触読等指導（開催場所 神戸市 県福祉センター）

中途視覚障害者に対し、6月～3月（のべ20回）、2講座各1名を開催し、点字技能師・点字指導員である仁枝玲子職員が、L点字を使用した触読の指導をはじめ、各種視覚障害者用器具の紹介、制度の説明などを行った。

### ◎生活・歩行訓練

日本ライトハウス養成部歩行訓練士5名を講師に、9月から3月、尼崎市、宝塚市、芦屋市、姫路市、明石市、稲美町の希望者9名に延べ46回実施した。

視覚障害者歩行指導員の武内氏を講師に、4月から3月、豊岡市、香美町の希望者2名に延べ49回実施した。（うち1名は就労問題のサポートも行っており、職場依頼の訓練も継続的に実施している。）

当協会歩行訓練士玉利・田村職員を講師に、4月から3月、宍粟市、赤穂市、三田市、西宮市、明石市、伊丹市、加東市、センター来所の希望者11名に延べ60回実施した。

歩行、生活・点字触読・パソコン等希望者の目標に合わせてカリキュラムを作成したうえで訓練を行う取り組みを開始した。今年度はコロナ感染症の影響で対面を避ける働きかけがなされたことから、来所者もまた訓練に出向くチャンスもめっきり減ってしまったが、入学を控えた新大学院生や新大学生の学内歩行訓練の要望があり、大学との関係を築くことができた功績は大きい。

## オ 点訳奉仕員養成事業

### ◎中級講座 開催場所 県福祉センター

6月～3月の間、全7回、各回6名を対象に、仁枝玲子職員が指導した。

## カ 朗読奉仕員養成事業 開催場所 県福祉センター

### ◎朗読奉仕員研修会

6月4日～3月4日 全12回 延170名の参加を得た。

## キ 視覚障害者社会参加支援事業

○丹波「あゆみの会」ブレイズETデモと情報交換 9月1日

○丹波・篠山 ミニ用具展 10月9日

○しあわせの村 障害者スポーツイベント 11月3日

## ク 同行援護養成研修

一般課程では、同行援護の制度と従業者の業務を理解し、基本的な移動の支援と技術を習得し、応用課程では、視覚障害者に対する理解を深め、講義・実技を通し必要な知識と技術を高めることを目的とする研修を実施した。

例年3～4回程度実施していたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、1回の実施



となった。実施にあたっては、「新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を作成し、ガイドラインに基づいて実施した。

講師は、視覚障害者歩行指導員 武内清氏が担当した。

一般課程・応用課程(1 地区実施)

・丹波篠山市

開催場所:四季の森生涯学習センター(丹波篠山市立中央公民館)

西館 2 階 研修室 大(第 1 研修室)

〒669-2205 丹波篠山市網掛 429

開催日: 9 月 24 日(木)・10 月 1 日(木)・7 日(水)・8 日(木)・14 日(水)・15 日(木)(計 6 日間)

定員 10 名・申込者 10 名・受講決定者 10 名・修了者 10 名

## (2) 点字制作施設事業

令和 2 年度は、兵庫県、神戸市等の点字広報制作、音声広報制作など通常業務に加え、3 年に 1 度の NTT 点字電話帳を作成。また、新型コロナウイルス感染症関連情報掲載の各自治体臨時号(点字版・音声版)等の作成があった。

## 3 同行援護支援事業

令和 3(2021)年 3 月末時点では、利用者は 144 名登録があり、内訳は県下 34 市町 139 名、県外 1 府 1 県 5 名、同行援護従事者については、県下 26 市町 89 名、県外 1 市 1 名であった。

実際に利用があったのは、県下 20 市町 県外 1 府 62 名であった。

## 4 認定こども園事業

当協会の新たな拠点施設として「明石さくらんぼこども園」の令和 4 年度開設を目指し、ボーリング調査や基本設計を実施した。

## 第 2 公益事業

### 1 日常生活用具等斡旋販売事業

コロナの影響で今年度は何よりも音声体温計が売れた年となった。また、オンライン授業等に取り組むことによる準備と思われる県立視覚特別支援学校購入のブレイルメモスマート 28 台を落札できたことは大きかった。日常生活用具のラインナップにおいては、音声腕時計に新モデルが登場したり、スマートグラスにほぼ同一機能だが別機種が出てきたりと、小さくはあるが動きのある年になった。利用者の選択肢が増えるという喜ばしい面がある一方、補装具では一番の売れ筋白杖がメーカーの廃業で販売終了となり、また白杖の価格も各社値上げに踏み切ったことから、基準額内で収まる白杖が減り、利用者にとっては負担増、または選択肢が少なくなってしまうという面もあった。取引件数は昨年度比 5%増と僅かなアップになった。

## 2 文化教養交流等事業

会員・ボランティアの参加を得て次の事業を実施した。

### (1) 文化教養事業

- ・芸能大会 10月16日 垂水レバンテホール 参加総勢30名

### (2) 交流等事業

#### ① 日本視覚障害者団体連合

- ・評議員会 書面表決 参加1名
- ・あはき協議会代議員会 中止
- ・スポーツ協議会代議員会 中止
- ・全国視覚障害者代表者会議分科会・全体会議 中止
- ・第73回全国視覚障害者福祉大会 中止
- ・第1回近畿ブロック委員会 7月3日 兵庫県福祉センター 参加5名
- ・第2回近畿ブロック委員会及びあはき研修会 中止
- ・近畿ブロック団体長会議 2月17日 電話会議 参加2名
- ・近畿ブロック団体長連絡会議 3月17日 参加2名
- ・あはき等法19条裁判傍聴及び説明会等 3月24日 参加2名

#### ② 情報発信

- ・県視協情報発行 一年4回一般・特別会員に配布（デジ版・CD版）
- ・ホームページ配信 毎月1日更新

#### ③ 歳末助け合い

毎年、神戸新聞厚生事業団からの寄付を原資として実施してきたが、昨年度より寄付の額が激減したため、同事業は今年度より中止となった。

#### ④ 各地区活動助成事業

7地区において独自の支部活動が行われ、延474名の参加があった。

#### ⑤ 部活動

##### ○青年部

- ・青年部定期総会 書面決議
- ・その他の事業は中止

##### ○女性部

- ・役員会 7月17日 県福祉センター 参加6名
- ・支部長会 10月22日 県福祉センター 参加11名
- ・役員会及び監査会 3月11日 県福祉センター 参加4名

- ・上記以外の行事は中止

##### ○高年部

令和2年度の行事は全て中止

##### ○音楽部

- ・事業を実施せず

## ○スポーツ部

### 【役員会等】

- ・近畿ブロックスポーツ部委員会 2月28日 京都府

### 【サウンドテーブルテニス部】

- ・のじぎく杯STT交流会 10月23日 県立障害者スポーツ交流館 参加選手 20名

### 【グラウンドソフトボール部】

- ・第22回兵庫県グラウンドソフトボール選手権大会 10月11日  
神戸市立大倉山公園野球場 当番：神戸市 参加選手 15名
- ・県GS選手権大会実行委員会 7月10日 神戸市立総合福祉センター
- ・上記以外の行事は全て中止

## 第3 社会福祉充実計画

当協会では、平成29年度より社会福祉充実計画に取り組むこととし、6項目の計画を立案し、以下のとおり計画を推進した。

### 1 歩行訓練資格を持った職員の養成

前年度に1年基礎Ⅰ・Ⅱを修了した職員に1年間の応用コース(通信教育)を受講させた。

### 2 計画期間中の職員の増員

平成30年度から引き続き職員の増員に係る経費を支出した。

### 3 サービス提供責任者の増員

前年度に引き続き、サービス提供責任者2名体制を継続した。

### 4 点字出版機器等の更新

前年度にCD/DVDタワー型デュプリケータ1台を購入し、完了した。

### 5 点字図書館リニューアル事業(IT情報室の改築)

前年度にIT情報室を改築し、聴読室を整備するとともに、立体コピー機1台を購入し、完了した。

### 6 全県及び地区交流会の実施

新型コロナウイルス感染拡大防止を図るため、会員外の社会参加やボランティアとの交流を進める全県及び地区交流会は中止した。